

# 高祖日蓮大菩薩御会式

令和4年10月30日 第一座 9時30分～

奉修導師 当山住職 小山日秀導師

第二座 11時～

奉修導師 信教寺住職 濱田日重導師



第一座

出座前の御導師と教務さん方



当山住職 小山日秀導師 昇堂



第一座 出仕教務さん



建営御有志完納者表彰状 授与式



## 第一座 御法門

開導聖人御指南  
 「かかると出度き御本尊を胸の内に懸奉りながら頂礼せんと思ひには、懸奉れる御本尊を拝すれば、我胸の中の十界の諸仏聖衆を拜む事なりと也」  
 「御本尊は仏、上行菩薩に付願ありて、祖師日蓮大士より、いただきたる久遠本因妙の仏種なり。また我辺のたましいなり。仏性なれば、力に随ひ、成る大結構に御表具をなさるが御身の為に候」  
 御法味  
 私たちのとなえる御題目を御本尊はただかかれてその身を養つておられる。ですから御題目の上からい家は御本尊は腹ペコの状態です。いざというときに、助けたいことが出来ない。御本尊を大切に、ということは自分の心を大切にすることであり、お互いは自分の心を常に磨いて、光り輝かせて、直ぐにお祈りのいただけるように御題目唱とお給仕を心を込めてさせていただきます。

南無妙法蓮華經  
 御法門  
 御法様  
 御堂前  
 御題目様  
 妙法の五字  
 仏性

大意  
 妙法五字は法華經の御魂であり、久遠の本仏の御魂であり、私たちの心に具わる本仏の御魂と同じ心、仏性を本尊として信仰させていただくのが佛立宗の信心です。

法花経を 信する人の たましいひを  
 本尊とする 宗旨也けり  
 本山住職 小山日秀導師

令和四年十月三十日 清雄寺高祖会第一座 御法門  
 佛立開導日蓮聖人御教  
 本山住職 小山日秀導師



地下広間にて聴聞するご信者



事務局長 お礼の挨拶



奉修御導師 退堂



## ご奉公者の皆さん



第2座



奉修導師 熊谷信教寺住職 濱田日重導師 昇堂



第二座 出仕教務さん



第二座 御法門

結 動  
 どうかご信心の難儀を喜ぶか、腰の引けた信心になつていないかどうか。  
 お祖師さまのご苦勞を昔の話に終わらせていないか、繰り返して反省改良が  
 大切。

開導聖人御指南  
 『御法のためには、身を勞し、心を尽くす』  
 『第一の樂しみとすべし、信者、これを思ふ』

(風を14番四頁)



御題「松間の月」

大意

秋の月夜の風情を胸にとられ、人生に難儀・苦勞  
 が起ころうとも、それを厭わず、逆に難儀・苦勞に  
 喜び、勇氣・氣概を持つことが、私たち佛立信者と  
 してのご奉公の態度と、お示しです。

令和四年十月三十日 清雄寺高祖会第二座 御法門  
 佛立開導日扇聖人御教歌  
 中々に、松の葉ごしに、みざりせば  
 たゞよやかなる、月夜ならまし  
 熊谷・信教寺住職 濱田日重導師



事務局長 お礼の挨拶



奉修御導師 退堂

